

## 2024年度（令和6年度）学部入学式 学長訓示（2024年4月2日）

広島市立大学に入学された418名の入学生の皆さん、広島市立大学へのご入学おめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎します。また、ご家族の皆様、ご関係者の皆様にも、心よりお喜び申し上げます。

広島市立大学は、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念に掲げて、1994年（平成6年）に広島市が設置した公立大学です。本学は学生数が大学院生を含めて約2,000名の中規模大学ですが、国際学部、情報科学部、芸術学部というユニークな学部構成を持つ総合大学であり、約200名の専任教員による少人数教育を特色としています。また、1998年に広島平和研究所、2019年に大学院平和学研究科を設置し、平和に関する教育と研究にも力を入れています。

広島市立大学は1994年に開学しましたので、ちょうど今年は開学30周年の節目の年です。おそらく学部入学生の全員がまだ生まれる前ですので、30年前の社会を思い描くのは入学生の皆さんには難しいかもしれません。当時、インターネットはすでにありましたが、ウェブは一般には普及しておらず、スマートフォンもなく、GoogleやAmazonも存在していませんでした。EV（電気自動車）もありません。テレビはアナログ放送でした。気候変動や地球温暖化が一般の人々の関心を集め始めたのは1997年の京都議定書の締結以降ですので、1994年当時は「地球温暖化って何ですか」という感じでした。

このように世界は過去30年間で大きく変わりましたが、過去30年間の変化を大きく超える変化が今後の30年間で起きることは確実です。情報技術については、現在の最先端コンピュータとは桁違いの性能を持つ量子コンピュータの実用化が予測されています。昨年、急速に普及したChatGPTに代表される生成AI（人工知能）は社会の在り方を根本的に変える可能性があります。

また、地球温暖化が進むことで気象災害のリスクが高まり、私たちの生活や経済活動に甚大な影響が出るとの予測もあります。宇宙では、火星にまで人類が進出しているかもしれません。このような人類史上でも稀な大転換期に皆さんは大学に入学したことになります。30年後に皆さんが社会を動かす主役となったとき、どんな社会や地球環境になっているか、自分がどのようにこの社会に関わっているかを思い描いてみて下さい。

それでは、皆さんがこのような時代の大転換期を生き抜くためにこれから大学で何を学ぶべきか。専門分野の知識や技能の修得はもちろん重要です。社会や人間、地球の様々な課題を解決し、人間や地球のよりよい未来を拓いていくためには、学問に裏打ちされた高度な知識や技能が必要です。これから皆さんはそれぞれの専門分野において深く学問を探究することになります。人は一生、学び続けることができますが、やはり若い時に集中して学ぶことが重要ですし、効率的です。是非、学問に励んで下さい。

しかしながら、知識や技能を身に付けるだけでは、生成 AI の時代を生き抜くのは難しいかもしれません。なぜならば、知識、技能は AI も得意とするところだからです。そして、AI の出力をそのまま受け入れるようになれば、人間はこの社会の主役ではなくなります。人間がこの社会の主役であり続けるためには、AI を使いこなすことが必要であり、そのためには、総合的な理解力や判断力、あるいは感性や審美感、倫理観、そして他者を理解しコミュニケーションする力が必要になります。それでは、そうした力をどうしたら身に付けることができるのか。私はこれからの皆さんの大学生活において、次の3つのことをお勧めします。

1つは本を読み、深く考える習慣を身に付けることです。本は人間がこれまで築き上げてきた知識と智慧の宝庫です。本を読むことで、人は考える力を鍛え、系統だった知識を身に付けることができます。本を通して、世界中の、あるいは歴史上の偉人、賢人から学ぶこともできます。しかしながら、いきなり

難しい本を読みなさいと言っているわけではありません。本を読む習慣が大切で、その習慣さえ身に付けば、あとは読書をしているうちに、人間について、人生について、あるいは様々な大切なことについて、自然に学び、自分の糧にすることができます。

読書に慣れていない皆さんも多いと思います。そんな学生のために、本学では「いちだい知のトライアスロン」という教育プログラムを全学で推進しています。この教育プログラムは、学生が「知る」「考える」「伝える」能力を身に付けるため、授業や学生生活の中で、読書、映画鑑賞、美術展鑑賞に取り組むことを全学で支援する事業です。「いちだい知のトライアスロン」に参加して、読書の向こうに広がる豊かな世界を体験して下さい。

もう1つは人との出会いです。他者と交わることで人は成長します。AIは人間ではないので、AIが他者となることは不可能です。例えば、大学には様々な課外活動団体があります。そうした団体に加入し、学部、学年を超えた仲間と一緒に活動するのもいいでしょう。あるいは旅をするのもいいでしょう。見知らぬ土地で見知らぬ人と出会うことで、世界観が変わる可能性も大いにあります。特に海外での人との出会いは日本にいては経験できないものになるかもしれません。在学中に留学を考えている人もいると思います。本学は様々な形態の留学プログラムを提供しています。是非、そうしたプログラムを活用して、世界の人々との出会いを実現して下さい。

最後に、平和についてです。広島で学ぶ学生として、1945年8月6日に広島市で起こったことは忘れてはならないことです。ウクライナ戦争や中東ガザでの紛争、あるいは核兵器の拡散など、今、平和は危機に瀕しており、このままでは人類の生存自体が危ういかもかもしれません。そして平和を求める心は人間にしかなく、平和の実現をAIに求めることはできません。ぜひ、平和に対する自らの考えを学生時代に深めて下さい。来年は被爆80周年です。本学は平和を学ぶカリキュラムも多数用意していますし、広島市に住んでい

れば、学外においても平和に関することに触れる機会も多いと思います。広島で育った人も、広島以外で育った人も、これからは広島市立大学の学生として、平和について深く学び、平和に対してどう向き合っていくかを考える人間になってください。

以上が皆さんのこれからの大学生活に対する私の3つのアドバイスです。入学にあたって、皆さんはいろいろな夢や希望を抱いていると思います。そして、皆さんには夢や希望を実現するための4年間という時間があります。しかしながら、4年間は長いようでいて、過ぎ去れば一瞬かもしれません。広島県庄原市の出身であり、大正から昭和初期にかけて活躍した劇作家で評論家の倉田百三は

「青春は短い。宝石のごとくにしてそれを惜しめ。」

と述べ、さらに

「夢見ることを止めた時、その人の青春は終わるのだ。」

と続けています。皆さん、どうかこれからの4年間の一日一日を宝石のように大切にしながら、自分の夢の実現に向かって、あきらめることなく挑戦してください。本学は皆さんの夢の実現を全力で応援します。

最後に、皆さんの広島市立大学での日々が実り多いものになることを祈念しまして、結びとします。本日は、ご入学、誠におめでとうございませう。

2024年（令和6年）4月2日

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一